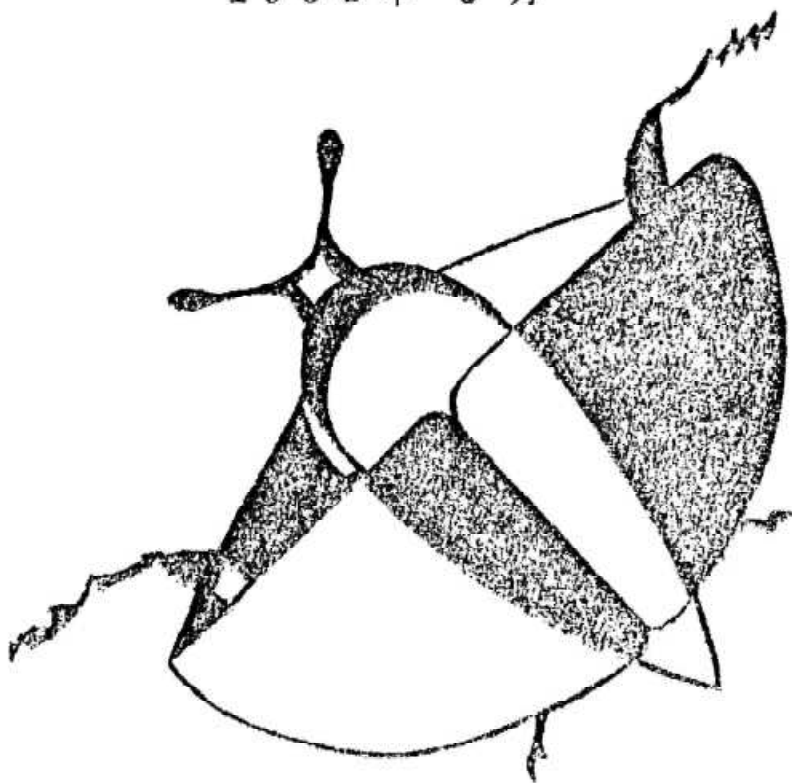

すずむし

SUZUMUSHI

Vol. 4 No. 6

1954年 6月



倉敷昆虫同好会

倉敷附近の蝶類

(3) 小野 洋・広瀬 義躬

49. *Limenitis camilla japonica* MÉNÉTRIÈS オナモンチヨウ
6月。北部丘陵に出現するが、稀。
50. *L. glorifica* FRUHSTORFER アケマイチモンジ 5月中旬—6月上旬少
い。北部丘陵地帯で採集できる。
51. *Nestis aceris passerculus* FRUHSTORFER コミスジ 4月下旬
5月、7月—10月上旬 各処に多い。
52. *N. poyerii* BUTLER ホシミスジ 5下、6中、7中、8下、5月下旬—7月上旬、7月
下旬—9月中旬。主として下街地に普通。
53. *polygonia C-aureum* LINNÉ キタテハ 3月上旬—5月中旬、5月
下旬—11月中旬。秋型は9月下旬より、発生す。
54. *Kaniska canace no-japonicum* VON SIEBOLD ルリタテハ
3月下旬—5月中旬、6月上旬—11月中旬 10月上旬には秋型が発生す。
55. *Nymphalis xanthomelas japonica* STICHEL ヒオドシチヨウ
3月下旬—4月、5月下旬—11月上旬。普通種。
56. *Vanessa cardui* LINNÉ ヒメアカタテハ 3月上旬—5月、6月上旬—
11月下旬各処に普通。
57. *V. indica* HERBST アカタテハ 3月上旬—5月中旬、6月上旬—11月中旬。
普通種。
58. *Dichorragia nesimachus nesiotis* FRUHSTORFER スミナガシ
8月。鶴形山で樹液に集飛せるものを稀に見ることが出来る。
59. *Apatura ilia substituta* BUTLER コムラサキ 5月下旬—10月。
各処で普通に見られる。
60. *Hestina japonica* FELDER et FELDER ココダラチヨウ
5月中旬—10月、各処で普通に産する。時に年3回発生。
Familia SATYRIDAE ジマノメチヨウ科
61. *Ypthima argus* BUTLER ヒメウラナミジマノメ 4月下旬—6月中
旬、7月中旬—8月中旬、8月下旬—9月下旬
62. *Y. motschulskyi* BREMER et GREY ウラナミジマノメ 6月。北陸丘
陵、タコラ山附近に産するが、個体数は少ない。

63. *Satyrus dryas bipunctatus* MOTSCHULSKY ジヤノメチヨウ
7月上旬-10月上旬。多産。
64. *L. the sicelis* HEWITSON ヒカゲチヨウ 6月上旬-7月上旬
8月中旬-10月上旬。丘陵地帯に多産。
65. *L. diana* BUTLER フロヒカゲ 6月上旬-10月下旬。
北部丘陵地帯で稀に採集出来る。
66. *Neope goshkevitchii* MÉNÉTRIÈS キマダラヒカゲ 4月下旬
6月上旬, 7月下旬-9月上旬 丘陵地帯に普通。
67. *Mycalasis gotama fulginia* FRUHSTORFER ヒメジヤノメ
5月中旬-11月上旬 各処に普通。
68. *M. franciscoa perdicca* HEWITSON コジヤノメ 5月中旬-11月
下旬-8月中旬に丘陵地帯で得られるが少い。

以上8科47属68種を産する。岡山縣下では一般的に、北進するに従つて種類数を増加する傾向が認められるようで、例之は倉敷より10軒ばかり北の豪波、金山の線では既に *Daimio tethys felderi* BUTLER ダイミヨウセセリ, *Gonepteryx mahaguru miphonica* VERITY スヂボソヤマキチヨウ, *Anthopala bozalus turfata* BUTLER ムラサキツバメ, *Artopætes puyeri* MURRAY ウラコマダラシジミ, *Coreana ibana* BUTLER ウラキンシジミ *Rasala arata* BREMER トラフシジミ, *Melitæa phoebe scotosia* BUTLER ヒヨウモンモドキ 等を加えることが出来ると言った状態で3種は今後倉敷附近から発見される可能性が大きい。全縣下では現在迄の記録、公表によれば116種以上を数えるが充分に検討の余地が残されている。

尚、以前倉敷市酒津で *Fontia daphidice orientalis* KARDAKOFF チヨウセンシロチヨウガ 1個体採集された確実な記録があるが、詳細は明かでない。

主要文献

- | | |
|----|---|
| 1. | 青野 芳昭 外(編)(1951): 鶴形山の昆虫。すずむし別冊. 1: 2-4 |
| 2. | 広瀬 義躬 (1952): 倉敷附近の蝶類について, 蝶類5: 42-44 |
| 3. | (1952): 金山附近の注目すべき蝶類, すずむし2(12): 133-135 |
| 4. | 小坂 和彦 (1946): 岡山縣産蝶類目録, 岡山博物同好会会報(予報)ソノ1. |
| 5. | 木野 弘造 (1952): 蝶の採集と研究(2) 岡山縣吉備郡総社町附近に於ける蝶類, すずむし, 2(3): 20-22 |
| 6. | 奥谷 煥一 (1947): 二三昆虫の分布, 採集と飼育 9(8,9): 167 |
| 7. | 小野 洋 (1949): 倉敷附近の蝶についての研究(一), 倉工文化2(3): 3-6 |
| 8. | (1950): 倉敷附近の蝶についての研究(二), 倉工文化2(4): 1-3 |
| 9. | (1950): 倉敷の蝶, shell, 1(1): 11-17. |



ホシミスジ *himese*

4) 蛹化及び羽化時刻について：本種の蛹化時刻に関して、現在近観察したところによれば大体PM9—AM5と思われ、又羽化時刻に関しても大体同様を夜間羽化が原則で夜明け頃が最も多い様だ。蛹化時刻の方は多少例外があるかもしれないが、羽化時刻の方は現在近多くの蛹を羽化させたにかかわらず、殆んどがPM3—5に羽化し、晝間羽化等一回も見ていない。

5) 蛹の運動：本種の蛹は蛹化時間の大体中期に何の衝撃も与えないのに突然腹部を急速に振動させることがよくある。その振動期の長さは1—5分位であり、ヒヨウモンチヨウ類の蛹で見られるこれと同様の運動ではもつと長い様だ。この振動をストツウオツナで1頭の蛹について只1回計ってみたのだが、その結果は1分間に96回の割合であつた。アカタテハ、ヒオトシチヨウ等の蛹でも触れたり、振動を与えると、上記の如き動作を示すが、これらの蛹はヒヨウモン類の蛹と同様に振動速度が非常に速く、数えられない程である。これらの蛹では触れたものがそのまゝの状態であると、更にその振動期の長さは長くなり、これは蛹の1種の威嚇動作だと考えられる。但しそれがたんにアガハチヨウ類に見るが如き振動による発音はタテハチヨウ科の蛹

には存在しない。

6) 新食草イワカサ：今度本会会員となられた番川殿のの官武頼夫代から今春全蝦中夢度郡下で野生のイワカサ *Spirea*

blumei から幼虫を採集したとの御便りをいただき、且幼虫をも10数匹ばかり送っていただいた。いづれ全代から発表されることとも思われるが、現任迄に記録された食草、ユキヤナギ、シジミバナ、コデマリ、シモツケ、等の中にはないようで新しい食草としてここに記しておきたい。御知らせ下さつた全代に厚く御礼申し上げたい。

本種の食草とするこれらイバラ科シモツケ類 (*Spirea*) のものは、固著的に色々の変種としてそうなつたのかと思われるが、変種といつたものが非常に多く植物の専門家でも直ちに同定は出来かねる様な代物でここにも一つ研究を進める上での雑聞がある。なおこの機会に一言しておくが、江崎・自木両氏の労著「日本の蝶」には本種の食草の一つとしてコゴメバナ (= ユキヤナギ) となつているが、牧野植物鑑 (1948) によればシジミバナ (= コゴメバナ) となつている。植物には暗い私とてよくわからぬが一すおかしき気がする。No.294

(広瀬義躬)

福山にホソハンミヨウ

巻数地方に於ける本種 *Cicindela gracilis* PALLAS の産地としては現在迄に羽島山があげられるに過ぎなかつたが1954年6月13日、北部丘陵の福山に登頂の際、松林の下草の間を敏捷に活動する本種を発見採集した。少なからず産するようになるので、新しい産地として一応報告する。—No.295 (小野 洋)

Vol. 4, No. 4		訂正	
頁	行	誤	正
25	2	その同好会の	その後同好会の
	12	南,北に	僅に南,北に
	21	3月上旬～	3月下旬～
26	1	<i>Lamprospilus</i>	<i>Lamprospilus</i>
	23	<i>Xuthus</i>	<i>P. xuthus</i>
	25	<i>macilentus</i>	<i>P. macilentus</i>
27	7	丘陵沿の	丘陵沿の
	11	丘陵沿地帯	丘陵沿地帯
Vol. 4, No. 5		訂正	
頁	行	誤	正
29	16	<i>Orientalis</i>	<i>Orientalis</i>
30	14	<i>seitzi</i>	<i>seitzi</i>
	31	普通	普通種
31	5	MÉMÉTRIÉS	MÉNÉTRIÈS
32	20	本誌は	本年は、

最近の鶴形山公園

戦後ひどく荒れていた鶴形山公園も最近はずつと手が入られて、或地域はずつかりきれいになり見変わってしまった。東町から山頂まで自動車道路がついたので人の足はタクシーで乗上げる有様で人数もかなりふえたようだ。ツツジが沢山植えられて花期にはアゲハやヨウ類が多く飛来するようになった。道路のついたあたりは以前あまり足をふみ込まなかつたところ、人手が入ると虫が少くなるのが通常であるが、こゝでも又新しい虫が発見出来るかも知れない。かく言つた調子で凡てがためになつてしまつたわけではない。又東手の方はまだまだ相変わらずの状態、虫達の楽天地。夏ともなれば夏休みの宿題と云う重荷を背負つた子供達をも混えて、小さな虫屋達がひびめき合うことだろう。(編集部)

蛾類研究雑誌 TIMEA 御紹介

蛾類同志会発行

第一巻内容(第1号既刊・第2号近刊)

- 井上 寛：日本産ナミシヤク及びエダシヤク亜科について(英文)
- 杉 繁郎：日本産食地衣性コヤカ6種
- 井上 寛：八丈島及び三宅島の尺蠖
- 岡野磨彦郎：日本産若干の蛾類について
- 山本義丸：エソスズメの幼虫と蛹
- 結方正美：日本産 *Hypoclaena* 属について
- その他最近の文献、抄録等

—————年2回発行・会費年額300円—————

○他に「蛾類同志会通信」年数回配付

入会お申込は

東京都大田区入新井4-112

振替口座東京 150268 番 陸水社

通 信

江崎博三先生：前略 今度は「すずむし」第四巻第一一四号をお送り下さりありがたく拝受厚く御礼申し上げます。例によりましていろいろ有益な記録あり面白く拝見致しました。取急ぎ右御礼まで。

江崎博三 六月十八日、

会費住所変更

~~編集後記~~ 6月号をお届けします。絶好の採集シーズンとはなりましたが、しと

しといふなものが降り続き、折角の日曜日もむすむすする腕をかかえて家にとじこめられると云つた始末。適当に切目をつけて出かけることが肝要。目新しい記録をうんと御報告いたします。

すずむし 第4巻 第6号 昭和29年 9月30日印刷
昭和29年 9月30日発行

編集者
編者

倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所

害虫学研究室内

倉敷昆虫同好會